

JA全農ウィークリー

全農広島鶏卵(株)が系統GP センター初のFSSC22000取得

2
面

3面

大分県の安心院町
グリーンツーリズム研究会

農泊推進へ3月に全国連合設立

宮田静一会長インタビュー



JAグループ千葉と千葉大学が包括連携協
定で締結式(8面)



系統GPセンター初のFSSC22000を取得した全農広島鶏卵(株)の中川浩介社長(中)ら(2面)

- 2 第12回全農養豚セミナーを開催(畜産生産部)**

- #### 4 JAズームイン(JAえちご上越)

- ## 5 JAズームイン(JA伊勢)

- ## 6 県本部だより(京都府本部)

- ## 7 青果情勢(園芸部)

- 8 JAグループ千葉と千葉大学が
包括連携協定締結(千葉県本部)

JAタウンショップ紹介

西のおいしさこだわりマルシェ
(JA西日本くみあい飼料(株))

**Web版JA全農ウィークリーは
こちらから**



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

News!



全農広島鶏卵(株)が系統GPセンター初のFSSC22000取得

衛生管理水準を向上させ消費者の信頼高め、鶏卵輸出拡大の突破口に

広島県本部



系統GPセンター初のFSSC22000を取得した全農広島鶏卵(株)の中川社長(中央)ら

「FSSC22000」とは、同GPセンターが既に取得している「ISO22000」をベースに衛生管理水準を高め、より確実な食品安全管理の実践を目的としたマネジメント規格です。安全な食品の提供に関するリスク低減や法令遵守の推進が期待でき、世界的に評価も高いことから、近年チャレンジする企業が増えています。同社では、「FSSC22000」独自の追加要求事項である食品防御(フードディフェンス)と食品偽装に関する項目に重点的に取り組み、審査の中では要求事項の理解度の高さ、リスクの分析力が高く評価されました。

取得した同社の中川浩介社長は「世界に通用する規格の認証取得を契機とし、今後の従業員の成長と会社の価値向上につなげたいです。また、製造工程に関わるハザードの明確化と管理により食品安全リスクを低減させることで、取引先や消費者からの信頼を高めるとともに、鶏卵の輸出拡大の突破口としたいです」と力を込めました。

今後は同社が運営する世羅GPセンターでの取得に向け、さらに力を入れていく予定です。

広島県本部の子会社で、鶏卵の洗卵選別包装加工を行っている全農広島鶏卵株式会社三次GPセンターは1月24日、食品安全マネジメントシステムに関する国際規格「FSSC22000」を取得しました。

News!



第12回全農養豚セミナーを開催

ハイコープ種豚飼養者ら130人が参加

畜産生産部

発表者によるパネルディスカッション



畜産生産部推進・商品開発課から「くみあい養豚生産システムWeb PCS」で集計した2017年の全国データの概況報告があり、飼料畜産中央研究所上士幌種豚育種研究室から「これからのハイコープ種豚の開

発とビジョン」について基調講演がありました。

その後、農事組合法人八幡平ファーム、有限会社K&Tコーポレーション、株式会社多田ファーム、萩原養豚生産組合、鹿児島県経済連知覧第2子豚供給センターの合計5農場から「ハイコープ種豚の能力を最大限に引き出す管理について」をテーマに農場事例の発表をいただきました。

セミナーの後半では、各発表者をパネリストとし「育成期の管理」、「妊娠期の管理」、「分娩・授乳期の管理」、「ハイコープ種豚に期待すること」をテーマに掲げパネルディスカッションを行いました。

セミナー全体を通して、参加者からの質問も多く活発な議論が行われました。

全農は2月1日、第12回全農養豚セミナーを東京・大手町のJAビルで開きました。セミナーでは、ハイコープ種豚を飼養している養豚生産者、JA、県連、県本部、グループ会社などから、養豚関係者ら約130人が参加しました。

安心院町グリーンツーリズム研究会(大分県)

宮田静一会長インタビュー

都市住民らが農家に泊まり農村に長期滞在する「農泊」を広げようと、新たな全国組織「未来ある村 日本農泊連合」が3月に立ち上がります。連合の発起人代表で農泊の先駆者でもある大分県の安心院町グリーンツーリズム研究会の宮田静一会長に、農泊の魅力や連合設立の狙いなどを聞きました。【広報部】

1996年に、安心院町グリーンツーリズム研究会を大分県宇佐市安心院町で有志の農

け入れが主体でしたが、近年増えているのが、韓国からの観光客など訪日外国人(インバ



農泊推進へ3月に全国連合設立

安定した産業へバカンス法制定目指す

家8戸で立ち上げ、農泊の取り組みを進めてきました。研究会に登録する農家は60戸に広がり、昨年の受け入れ人数は9000人近くで、前年を約2割上回りました。

農泊が発展したのは、泊まっ

た農村で、家族のように夕食を囲んで会話をするなど、「心の交流」があったからだと考えています。「人」こそが、最も重要な農泊の資源です。

これまでは修学旅行生の受

ウインド)です。日本全体の訪日外国人も年々伸び続けており、年間約3000万人に上ります。

「農泊」は農村で心と心を交流させながらの滞在

一方、訪日外国人が都市部のマンションの空いている部屋などに宿泊することも「民泊」とくくられているようですが、大きな問題ではないでしょうか。訪日外国人を農村に呼び

込むためにも、農村で心と心を交流させながら滞在することを「農泊」と明確に打ち出すことが、今、特に重要です。そう考え、農泊を推進する新たな全国組織として、日本農泊連合を3月に立ち上げることにしました。

連合の活動の柱の一つが、長期休暇制度の法制化、つまり、「バカンス法」の制定を訴えていくことです。日本の社会人はなかなか休暇を取りに

れから挑戦したいと考えている組織をはじめ、農業体験や農産物の加工販売に取り組んでいる団体を会員とする他、連合の活動を支えたいという個人も応援団として加わることができます。

3月16日、17日には、全農などの協力のもと、結成記念シンポジウムを開きます。多くの方々の連合への加入、シンポジウムへの参加をお待ちしております。

くいのが実情です。一方で欧州を中心とする各国は、年間に最低2週間の連続休暇の付与を義務化することなどを盛り込んだバカンス法を定めています。農泊が農村地域の安定した産業になるためには、日本にもバカンス法の制定が必要なのです。

「連合」の活動支える個人の応援団も大歓迎

連合は農泊の実践組織やこ

未来ある村 日本農泊連合 結成記念シンポジウム

会場:安心院文化会館
(大分県宇佐市安心院町下毛2130)

日時:3月16日(土)13:00~17日(日)12:30

内容:3月16日(土)13:00~16:30

特別講演 石破 茂(衆議院議員)

基調講演 神出 元一(JA全農代表理事理事長)

★神出理事長は「地域農業の振興を核にした地方創生の取り組み—全農の挑戦—」と題し、講演を行います。

基調講演 島村 菜津(ノンフィクション作家)
17:00~18:30 スローフード交流会

3月17日(日)9:30~12:30

農泊 我が村の主張「グリーンツーリズムの今、そして2020年以後 農村が目指すもの」

進行役 小谷 あゆみ(フリーアナウンサー)

参加方法:3月15日までにファックスなどで申込み

問合せ先:TEL 0978(44)1158

FAX 0978(44)0353

日本農泊連合 結成記念シンポジウム

検索

宮田静一さんの著書プレゼント ~抽選で5名様に~

『しあわせ農泊 安心院グリーンツーリズム物語』

〒100-6832 東京都千代田区大手町1-3-1

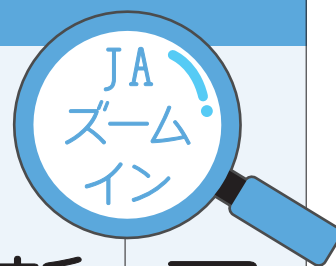
JA全農広報部 JA全農ウィークリー「宮田静一さん本プレゼント」係
平成31年3月15日(金)当日消印有効

※郵便はがきに、郵便番号、住所、氏名、年齢、所属JA、電話番号、「JA全農ウィークリー」の感想をご記入の上、ご応募ください。

※応募多数の場合は抽選で当選者を決定いたします。また、当選の発表は発送をもって代えさせていただきます。

※いただいた個人情報は、プレゼントの発送のみに使用いたします。





「食」の魅力伝える直売施設

新たな観光スポットがスタート

JAえちご上越は、高品質・良食味な米生産を中心に、最重要品目に位置付けるエダマメなど園芸振興にも力を入れています。

「畑」「杜」「海」が集まり「上越あるん村」オープン

JAえちご上越は昨年4



食と農のテーマパーク「上越あるん村」



生産者との対面販売が充実した「あるん畑」

月に、食と農のテーマパーク「上越あるん村」をオープンしました。敷地面積は約1万2000平方メートルで、大型バスの駐車も可能です。名称は、農産物直売所の「あるん畑」、レストラン運営やパンなどの加工品を扱う「あるんの杜」、鮮魚売りの「あるんの海」を一带

とした施設全体の総称です。

新鮮な農畜産物や農産加工品、海産物などを取りそろえ、山の幸・海の幸が一カ所で手に入るワンストップショッピングを実現しました。地域の拠点施設として、地元の農畜産物の販売機会を増やし、農業者の所得増大を目指しています。また、地元の「上越市立水族博物館うみがたり」などと連携し、新たな観光スポットを目指しています。

日々業務改善を進め利用者目線の店舗へ

「上越あるん村」は、よりよいサービスを提供するため日々業務改善に取り組んでいます。業務のPDCAサイクル（Plan・計画、

JAえちご上越（新潟県）



パン、総菜、ジェラートなどを扱う「あるんの杜」

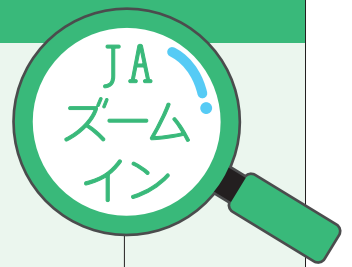
Do・実行、Check・評価、Action・改善を繰り返すことで生産管理や品質管理などの管理業務を継続的に改善していく手法）を循環させ、「今日よりも明日、明日よりも明後日」とサービスの質を上げていきます。施設全体では、イベントカレンダーを作成し、毎日3店舗のど

こかで小イベントを開催している他、生産者による対面販売の充実やクーポン発行などによる店舗間連携、親子向けイベントの充実など、よりよい施設を目指した取り組みを実践しています。「あるんの杜」では、地場産の農畜産物を使ったパンや菓子、総菜の販売などを通じて、豪雪地域における園芸の定着と6次産業化に挑戦しています。また、地元大学と連携した食育講座を開き、上越の食や農業の魅力さをさまざまな角度から発信しています。常に進化を続ける施設を目指し、四季折々の「食」の魅力を伝え、上越地域の「食」と「農」を守り、次世代へつなぐ取り組みを進めています。

概要

平成30年2月28日 現在

正組合員数	1万7744人
准組合員数	2万2724人
職員数	1187人
販売品取扱高	11億7千万円
購買品取扱高	88億7千万円
貯金残高	3005億6千万円
長期共済保有高	1兆439億4千万円
主な農産物	米、エダマメ、トマト、ナス、アスパラ菜、ネギ、キュウリ、花きなど



子会社が青ネギ産地後押し

新規就農者を継続的に育成

JA伊勢は2012年4月、主力農産物である青ネギの生産量拡大と新規就農者の育成を目的に、JA100%出資の子会社「株式会社あぐりん伊勢」を

設立しました。

会社は、社員12人（うちJAから出向3人、研修社員2人、パート7人）、売上高5382万3千円（2017年度）で、主な経営作物は青ネギ7畝、スナップエンドウ20畝、水稻受委託20畝、2018年度からイチゴ10畝を栽培しています。

特に新規就農者の育成に力を入れ、2017年度末までに研修課程を修了した7人が就農し、今年度末にも1人が就農予定で、彼らのほとんどは非農家の出身ですが、「青ねぎ部会」の一員として頑張っています。

会社設立による効果

①生産数量の拡大と新規就農者の輩出

あぐりん伊勢が設立された当時は、高齢化で「青ねぎ部会」の部会員数が年々減少し、生産数量の減少が著しい状況でした。そうした中、あぐりん伊勢が生産量を下支えし、現在では部会に占める出荷割合は1割を超えるまでにになりました。また、あぐりん伊勢の卒業生が部会に加入したことで、部会員の若返りが図られています。

②営農指導力の強化

あぐりん伊勢の主要方針に「新技術の実証」を掲げており、毎年、さまざまな栽培試験を行っています。

JA伊勢（三重県）



概要

平成30年3月31日現在

正組合員数	1万4193人
准組合員数	1万3584人
職員数	627人
販売品取扱高	45億6千万円
購買品取扱高	46億6千万円
貯金残高	3083億7千万円
長期共済保有高	7133億3千万円
主な農産物	米、青ネギ、イチゴ、花き、畜産、茶など



青ネギを収穫する研修社員

青ネギでは、被害株などの刈り倒し再伸長栽培試験や、厳冬のトンネル栽培による生育比較試験などを行い、試験で好結果が得られたトンネル栽培については、今年度から多くの部会員も取り組んでいます。

イチゴでは、空ガラス温室を活用した低コスト栽培や、耐候性ビニールハウスによる栽培、新品種「よつぽ

し」の栽培試験などを行っています。

また、実際に農業に従事する社員が部会員に栽培の助言を行うことで、部会員からの信頼度も上がっています。

今後の目標

変化の激しい農業生産の現場は、現状維持の考えでは変化に取り残されてしまいます。子会社が先頭に立つて、これまで行ってきたような「手段」や「業態」に、積極的にチャレンジしていくことが重要です。

そのためにも経営基盤を安定させ、人材の育成にも積極的に取り組み、地域から必要とされる会社を目指し取り組んでいきたいと考えています。



青ネギを定植する社員

京都府本部 だより

京都府本部



安全・安心の「宇治茶」 ブランド茶を世界へ発信

輸出ニーズに対応する取り組みにも力



茶園を遮光資材で被覆する覆い下栽培。鮮緑色と独特の芳香やまろやかなうま味や甘味のある茶になる

京都では古くからお茶の栽培が盛んで、日本を代表するブランド茶である「宇治茶」が生産されてきました。お茶は健康飲料として古くから飲まれており、特に主成分の「カテキン」にはさまざまな効果・効能があり、近年の世界的な日本茶ブームは輸出やインバウンド需要の追い風になっています。

京都府内で唯一の 茶市場を運営

京都府本部は、京都市内で唯一の茶市場を運営しています。見本茶による入札方式で販売会を開いており、京都府内約100の茶商と取引しています。茶市場で取引されるすべての茶は、生産履歴の提出を義務付けており、提出された全てについて開示

ています。平成30年度の取扱数量は1967トと府内生産量の約67%の流通を担いました。特に近年の抹茶ブームを受け、抹茶の原料である「碾茶」の流通量が増えており、平成16年度には378トであった取扱量が、平成30年度は1074トと全体の半分以上を占めるようになりました。また、ここ数年で緑茶の輸出量が大きく伸びる中、輸出に対応した茶生産が求められています。京都茶市場では関係機関や生産現場と連携し、輸出向け防除体系の提案・確立を進めており、輸出ニーズに対応する取り組みにも力をいれています。



玉露

京都では他産地には少ない「手摘み」の玉露・碾茶が多く栽培されています。手間を掛けた肥培管理や昔ながらの栽培方法で生産される手摘みのお茶は、うま味成分を多く含む濃厚な味わいを楽しめます。また高品質な碾茶には、アンチエイジング機能がある「ポリアミン」という成分が多く含まれることも茶業研究所から発表されました。今後、このような歴史と伝統を受け継いだ宇治茶を日本国内だけでなく世界中の人に飲んでもらえるよう、宇治茶業界が一体となって普及拡大に努めています。



碾茶荒茶

歴史と伝統へのこだわり 「手摘み」の玉露・碾茶栽培

[青 果 情 勢]

(園芸部)



野 菜

春野菜の入荷が徐々に開始

概況

3月は、出荷産地が西南暖地から関東へと移り、冬野菜にかわって春野菜の出荷が本格化してきます。

キャベツは、愛知・千葉・神奈川などが中心の出荷となります。気温上昇にともない生育の回復が見込まれ、さらに愛知は台風後のまき直した作が出荷見込みのため、出荷量は前年を上回る見込みです。

ハクサイは、茨城・兵庫などが中心の出荷となります。秋冬作が終盤で中旬から春作の出荷が始まります。春作の生育は順調で、総体の出荷量は、前年を上回る見込みです。

レタスは、茨城・兵庫・静岡などが中心の出荷となります。兵庫・静岡は出荷量減少となりますが、茨城は前進傾向の生育となっております。出荷量は、前年を上回る見込みです。

ダイコンは、千葉・神奈川などが中心の出荷となります。秋冬作は切り上がりが早まっていますが、春作は干ばつの影響からやや遅れがみられます。出荷量は、前年を上回る見込みです。

ニンジン、千葉の秋冬作から徳島などに産地が切り替わります。徳島は種まき作業順調であり、生育も前進傾向となっております。出荷量は、前年を上回る見込みです。

トマトは、熊本・静岡・栃木・愛知などが中心の出荷となります。出荷量は、前年並みを見込みます。

キュウリ・ナスは、西南暖地や関東産地からの出荷となります。生育に大きな問題はなく、出荷量は前年並みを見込みます。

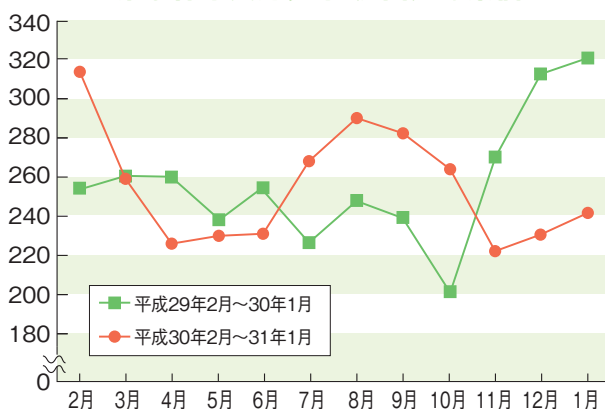
パレシヨは、北海道や鹿児島が中心の出荷となります。九州産地は豊作傾向であるため、出荷量は前年を上回る見込みです。

タマネギは、北海道・佐賀・静岡などが中心の出荷となります。出荷量は、前年を下回る見込みです。

店頭

店頭では、ひな祭りや卒業式などの催事に合わせたフェアが実施されます。鍋食材からサラダ食材を中心とした売場の演出が行われるようになります。

円/㎏ 東京都中央卸売市場 国産野菜価格



主産県 だより

2月は、レタス、トマト・ミニトマト、ニンジンの主産県が一堂に会し、作況見通しや販売対策の共有化、消費拡大の進め方について協議しました。今後も主産県による情報交換会などを定期的に開催し、出荷情報や販売情報の共有を図ります。



果 実

イチゴ・かんきつ類・リンゴなどが中心

概況

3月は、イチゴと中晩かん類が中心で、その他、キウイフルーツ、メロンなどの品目展開となります。

ミカンは、貯蔵物の産地を残して、出荷は終盤に向かいます。その他のかんきつ類では、「不知火」「清見」などを中心とした中晩かんの出回りが中心となります。

熊本・愛媛が中心の出荷となります。暖冬傾向であったため出荷ペースは前年よりやや早くなるため、3月の出荷量は前年をやや下回る見込みです。

リンゴは、青森の貯蔵物の出回りとなります。貯蔵量は前年を上回っています。

イチゴは、栃木・福岡・静岡などが中心の出荷となります。2月は曇雨天続きで出荷量が伸び悩みましたが、3月に入ってから各産地とも3番果が順調な出荷となり、出荷量は前年並みか前年をやや上回る見込みです。

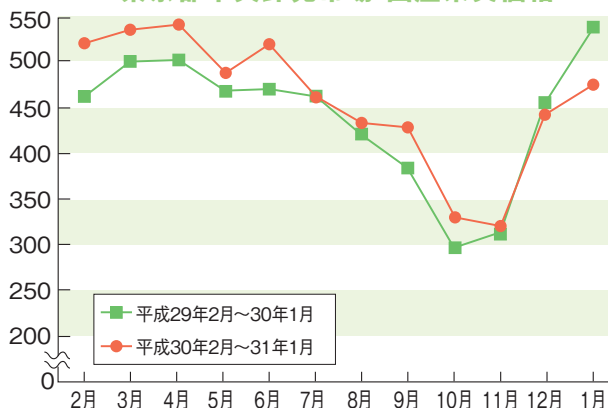
キウイフルーツは、福岡・和歌山などが中心の出荷となります。生産量の減少、前倒し出荷により3月の出荷量は前年を下回る見込みです。

アールスメロンは、静岡が中心の出荷となります。冷え込みもなく生育は順調ですが生産量の減少により、出荷量も前年を下回る見込みです。アンデスメロンは熊本中心の出荷となります。小玉傾向であり、前年をやや下回る出荷量となる見込みです。

店頭

3月は催事が多く、人気のあるイチゴ、デコボンなどが販売の目玉として積極的に陳列されるようになります。特にイチゴは、各産地から個性的な品種や商品が出回っており、豊富な品ぞろえとなります。

円/㎏ 東京都中央卸売市場 国産果実価格



JAグループ千葉×千葉大学

包括連携協定 を締結



農業振興へ新たなイノベーション創出
農業の明日を担う次世代型人材を育成

JAグループ千葉と国立大学法人千葉大学は2月1日、千葉市の千葉大学西千葉キャンパスで「包括連携協定」の締結式を行いました。【千葉県本部】

本協定では、千葉県の農業振興と地域経済・社会の活性化を図るため、健康や環境に幅広く展開する千葉大学の研究力と、農業の現場で総合事業を営んできたJAグループ千葉の知見が多角的に連携することで、農業振興に資する新たなイノベーションの創出と農業の明日を担う次世代型人材の育成に取り組みます。

千葉大学の徳久剛史学長は、「国

立大学としては、唯一園芸学部を有する大学です。単に農業分野の研究・連携だけでなく、総合大学としての強みを生かした部局横断的な連携体制の構築を視野に検討を進め、これまでに類を見ない新たな切り口から連携協力したい」とあいさつしました。

林茂壽JA千葉中央会・連合会会長(千葉県本部運営委員会会長)は、「千葉大学の研究力と、JAグ

ループ千葉の英知を連携させ、農業者の所得増大と農業生産の拡大を目指したい」と述べました。

当面の研究テーマは、“見える”農業の実証試験としてICT技術を用いた一貫管理や情報公開による消費者の農業参画などに取り組み、人工知能などを活用したスマート農業による新たなビジネスモデルの構築などを視野に入れ、農業振興のために連携協力していきます。



包括連携協定を結んだ林会長(右)と徳久学長



食と農のWEBマガジン

Apron
エプロン

Web限定の「レシピ検索」「菜園づくり」etc.
ぜひご覧ください!

Webマガジンは
こちらから

Apron Web

検索

<https://apron-web.jp/>



JAタウン |

検索
クリック

西のおいしさこだわりマルシェ
(JA西日本くみあい飼料㈱)



食べ比べたまご(セット) 47個・破損保証3個 計50個 たまごかけ醤油1本...3730円

香川県にある農場直営のたまご専門店から、4種類の「たまご」と「たまごかけ醤油」のセットをお届けいたします。飼育方法から餌まですべてにこだわった、たまご専門店ならではの新鮮でおいしいとおきの「たまご」をぜひご賞味ください!

- ①オリーブegg: 餌に小豆島産オリーブの葉を使用しており、通常の卵と比べて葉酸が約1.7倍! (10個)
- ②さくらたまご: 黄身と白身の味のバランスが優れており、どんな料理にも合わせやすい! (20個)
- ③平飼いたまご: うま味や甘みを感じられる濃厚な味わいが特長。付属のたまごかけ醤油でたまごそのものの美味しさを味わってください。(10個)
- ④白たまご: あっさりした味わいで厚焼き玉子やたまごサンドにぴったり。(10個)

なお、ご紹介した商品は、3/15(金)まで、FAXでもご注文を承ります(ご自宅宛代金引換のみ)。

【ご注文方法】①商品名、規格、数量②郵便番号③住所④氏名⑤電話番号⑥FAX番号をご記入のうえ、FAX番号03-5218-2517までご送信ください。
商品代金のほか、クール代、お届け先により送料が必要となります。

JA全農のインターネット
ショッピングモール

▶ご注文は <http://www.ja-town.com>

▶お問い合わせは shop@ja-town1.com

※本誌を通じていただいた注文などで取得した個人情報は、商品等の発送にのみ使用します。